

分野:器官系統病態学

主科目 副科目	放射線診断学・放射線腫瘍学 Diagnostic radiology and radiation oncology	DM_1423	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--	---------	----	------	------	-----------------

担当	教授	准教授	講師	助教	客員教授・その他
板橋	◎大場 洋 近藤 浩史 神長 達郎 (病院教授) 白石憲史郎 (病院教授) 宇都宮 英綱 (病院教授)		山本 真由 櫻町 円香		
-					
溝口	◎多湖 正夫 林 高樹 (病院教授)				浅川 靖真 (助手)

	放射線診断学・放射線腫瘍学Ⅰ (1年次)				放射線診断学・放射線腫瘍学Ⅱ (2年次)				放射線診断学・放射線腫瘍学Ⅲ (3年次)			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概要	講義:画像診断講義(脳神経、頭頸部、胸部、腹部、骨盤部、骨軟部領域、核医学)を受講する。 演習・実習:放射線診断専門医のもとで、各領域(脳神経、頭頸部、胸部、腹部、骨盤部、骨軟部など)の実際の症例を通じ、画像診断(核医学検査を含む)の基礎を習得する。放射線診断専門医とともに実際の症例の画像診断レポートを作成する。				講義:インターベンショナルラジオロジー(IVR)の原理、手技、適応などに関する講義を受講する。放射線科モダリティ毎の原理と特性に関する講義(CT、MR、血管撮影、核医学検査、単純写真、超音波検査など)を受講する。 演習・実習:IVR専門医のもとで、血管撮影手技を行い、実際の症例を通じて、様々なIVRの基礎と手技を身に付ける。				講義:放射線治療の基礎、適応疾患、放射線治療計画作成手法、放射線治療装置の原理・特性などに関する講義を受講する。放射線科医に必要な放射線物理学、放射線生物学、放射線安全管理(放射線防護)に関する講義を受講する。 演習・実習:放射線治療専門医のもとで、各領域の放射線治療の基礎と手技を身に付け、実際に放射線治療計画作成、患者管理を行う。			
到達目標	各画像診断領域(脳神経、頭頸部、胸部、腹部、骨盤部、骨軟部領域)の基本的な疾患について画像診断レポートを作成できるようになる。				IVR専門医のもとで、基本的な血管撮影手技を施行できるようにする。放射線科モダリティ(CT、MR、血管撮影、核医学検査、単純写真、超音波検査など)の原理と基礎を理解し説明できる。				放射線治療専門医のもとで、各領域の腫瘍に対し、基本的な放射線治療を施行できるようにする。			
事前事後学修	各領域の画像診断の基礎となる解剖と病理の知識を身に付けておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				血管造影・IVRの基礎となる脈管解剖と病理の知識を身に付けておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				各領域の放射線治療の基礎となる解剖と病理の知識を身に付けておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	作成された画像診断レポートの内容が的確で主治医の要求にこたえるものか否か、患者にとって有益な内容か否かを重視し評価する。(50%) これらを踏まえ、担当する放射線診断専門医および科長が、実習態度や実習内容により評価する。(50%)				実際のIVRを主施行者として最初から最後まで完遂できるかを評価する。(50%) これらを踏まえ、担当する放射線診断専門医および科長が、実習態度や実習内容により評価する。(50%)				各領域の悪性腫瘍に対し、適切な放射線治療計画をたてる。照射期間中に患者のケアを十分行う。照射完遂後、放射線治療の効果判定を適切に行える。以上のことが適切に行えるかを評価する。(50%) これらを踏まえ、放射線治療専門医および科長が、実習態度や実習内容により評価する。(50%)			

■主な演習(講義・実習含む)

	放射線診断学・放射線腫瘍学Ⅰ (1年次)	放射線診断学・放射線腫瘍学Ⅱ (2年次)	放射線診断学・放射線腫瘍学Ⅲ (3年次)
板橋	月 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 核医学診断	月 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 IVRの基礎と歴史	水 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 放射線治療の原理と基礎
	曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 画像診断レポート作成	火 曜日 13 : 00 ~ 17 : 00 実際のIVRに参加	火 曜日 9 : 00 ~ 12 : 00 放射線治療外来
	曜日 : ~ : 演習Ⅰ	曜日 : ~ : 演習Ⅱ	曜日 : ~ : 演習Ⅲ
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :
溝口	火 曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 内科カンファレンス	火 曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 内科カンファレンス	火 曜日 13 : 00 ~ 14 : 00 内科カンファレンス
	金 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 呼吸器カンファレンス	金 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 呼吸器カンファレンス	金 曜日 16 : 00 ~ 17 : 00 呼吸器カンファレンス
	月~金 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 画像診断実習・放射線治療実習	月~金 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 画像診断実習・放射線治療実習	月~金 曜日 9 : 00 ~ 17 : 00 画像診断実習・放射線治療実習

教科書・参考書

よくわかる脳MRI(秀潤社)、頭頸部領域の画像診断(秀潤社)、関節のMRI(メディカルサイエンスインターナショナル)、急性腹症のCT(へるす出版)、産婦人科の画像診断(金原出版)、腹部画像診断の勘ドコロ(メディカルビュー)、消化管の画像診断(秀潤社)、放射線治療計画ガイドライン2016年版(金原出版)

その他履修上の注意事項

近年のめざましい技術の向上により、画像診断学が臨床医学で果たす役割は増大している。インターベンショナルラジオロジー(IVR)は従来の外科手術に比べて侵襲が少ない利点があり、その重要度は増加している。また、放射線治療は悪性腫瘍の治療法として必要不可欠である。これらを効率的に行うためには、豊富な知識と経験が必要である。臨床の場で画像診断、IVR、放射線治療に携わり、放射線医学全般の基本知識と技術を学ぶことを目標とする。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	人体病理学・病理診断学、細胞組織学
	共通科目	インターベンション医学特論
関連する専門医資格		
卒後6年目で放射線科専門医(日本医学放射線学会) 卒後8年目で放射線診断専門医(日本医学放射線学会)または放射線治療専門医(日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会)		

キャリアパス(モデルコース)

